

～第6次二宮町総合計画策定に向けて～

10年後への町トーク（ワークショップ）

二宮町の「現在」と「未来」を考える

【第2回記録】

日時：令和3年10月24日（日）14:00～16:30

テーマ：【環境・防災】【土地利用・都市基盤】【自治体経営】

《テーマ》 環境・防災

【課題①】 多発する自然災害に強いまちとするために

→大規模な地震や豪雨による自然災害が各地で発生しており、安全・安心への意識がますます高くなっています。このような未曾有の自然災害においても、被害を最小限に食い止め、町民の生命と暮らしを守るためには、どのような取組みが重要でしょうか。

【課題②】 温暖化防止対策をはじめとした環境保全のために

→地球規模での環境保全意識の高まりにより、低炭素社会の形成や生物多様性の保全、循環型社会の実現といった取組みが重要視されています。住みよい地球環境を次世代につなぐため、町レベルでどのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
町の成り立ちや自然の大切さの理解	<ul style="list-style-type: none"> ○二宮の大地の成り立ち、歴史、生活文化を総合的に理解した上での里山保全。 ◎物を大切に暮らすについて学ぶ機会をつくる。(ex.管理ボランティアへの参加、WSによる教育活動、物の循環の仕組みの見える化) ◎失われないことが前提だった自然が、失われることが前提になったことを知る。
減災に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> ◎ヤブ化、ナラ枯れ等が進む町の山を根本から元気にすることで、観光地の側面を活かしつつ、自然災害の抑制につなげる。 ◎中途半端な形ではなく、地産地消をより一層拡充する。(ex.菜の花山、オリーブ山、玉ねぎ山、落花生山、しいたけ山、ソーラー山) →山の管理の担い手不足が自然災害につながる危険性があるため、山を含め休耕田等の積極的な活用を行う。 →農業試験場跡の果樹園や小学校周辺の農地等で展開することで、学習の場としても効果的。
防災・安全への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> ◎町の防災安全と開発のバランスを図る。 ○地域防災の充実とネットワークを強化する。 ◎災害予防・発生前・発生後の生命の安全と衣食住確保に向けた仕組みを強化する。(ex.消防団の経験) ◎長期の被災生活に備える。 →自給自足率の向上、水源・エネルギーの確保
温暖化防止に向けた指標化と誘導	<ul style="list-style-type: none"> ◎地球温暖化を防ぐ。(気候変動、地殻変動への影響) ○温暖化防止に向けた指標化を行う。 ○環境保全団体と地権者との間の調整を行う専門コーディネーターの育成。 ◎再生可能エネルギー利用の義務化。 ◎カーボンニュートラル(脱炭素社会)に向けた取組みの強化 →CO2削減を強化した自動車、住宅、家電等への補助金導入
環境に良いものを推奨する仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ○環境に良い商品を安く手に入れる仕組みをつくる。 →環境に悪いものへの町独自の課税制度など ○自家用車を使わなくても良い仕組みづくり →循環バスや乗り合いバスの運行、自転車が走りやすい道路環境の整備
リサイクルの仕組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみを活用できる仕組みを考える。(ex.リサイクルセンター)

《テーマ》 土地利用・都市基盤

【課題①】 暮らしやすさに直結する安定した住環境を保つために

→本町は JR 東海道線の二宮駅のほか、国道、県道を中心としたバス路線や高速道路などがあり、交通環境が充実しています。今後の高齢化を見据え、暮らしやすさに直結する道路や橋りょう、公共交通といった住環境を維持するため、どのような取組みや考え方が必要でしょうか。

【課題②】 生活の質を向上させる都市基盤施設を再編、維持していくために

→本町はこの小さな町規模にしては、地域集会施設などの公共施設が多く点在しています。しかし、その多くが老朽化しており、今後の人口減少を踏まえると、すべてを改修することは財政的にも困難と判断し、二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画を策定しています。今後、都市基盤施設を再編しつつ、適正に維持していくために、どのような取組みや考え方が必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
乱開発の抑制と既存施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ◎乱開発を抑え、現有の施設(未利用公共施設、空き家等)を有効に活用する。 ◎開発よりも環境保護や里山の美しい景観を優先する。 →ソーラーパネルの設置は既存の建物に限定して設置。 ◎二宮町は人口に対する公共施設の数が多いため、分不相応な施設を廃止し、重要な施設を維持する。 ◎3つの小学校へ機能を集約する。 →高齢者施設等との共用 ◎施設を循環するコミュニティバスによる機能の向上を図る。 →コミュニティバスは人だけでなく、モノを運ぶことで、買い物弱者へも対応
安全に通行できる道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◎歩道や自転車道を整備。(バリアフリー化) ○安全な生活道路や自転車道路の整備とモデルコースの紹介。 ◎交通網の再構築を行う。 →路面電車の導入、電気自動車・自転車のシェアによる環境面・安全面での向上
バス利用者向上のためのサービス	<ul style="list-style-type: none"> ○交通環境は整っているが、使いにくさがあるため、バスの乗り降りの手伝いや荷物を運ぶ等のサービスがあれば、もっとバスに乗る人が増えるのではないか。 ○公共施設をネットワークするバスやタクシーのルート設定。
町の再編ビジョンに合わせた整備	<ul style="list-style-type: none"> ○町全体の再編ビジョンに合わせた地区制度の見直しと、それに基づく地区拠点の整備とネットワーク化
町の自然的特徴のアピール	<ul style="list-style-type: none"> ◎二宮の地形や気候をアピールし、知名度をアップする。(ex.「健康に良い町」「風は吹くけど、陽はたまる」)

《テーマ》 自治体経営

【課題①】 町民と地域、行政が連携してまちづくりを進めていくために

→当町では、人口減少・少子高齢化・町民ニーズの多様化などが進展する中、町民一人ひとりの意見をより行政運営に反映させるため、行政だけでなく町民や地域と連携してまちづくりを進めることとしていきます。3者がより連携してまちづくりを進めていくため、どのような取組みが必要でしょうか。

【課題②】 日々の安全や生活の幅を広げるコミュニティを強化していくために

→生活の基盤となる地域コミュニティは、災害時だけでなく、日常の安全・安心や相互扶助機能も担っています。また、幅広い町民活動団体の活動は、趣味や健康など生きがいや生活の幅を広げる魅力を持っています。このようなコミュニティの活動を維持・充実させていくため、どのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
地域コミュニティ形成に向けたプラットフォームの整備	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな団体の活動を活かすためにも、これらをつなぐ組織が必要。 ◎庁内に(仮称)情報部職員課・町民課の創設。 <ul style="list-style-type: none"> →デジタル化への対応、インターネットを活用したアンケートの実施 →町の情報の共有化 →町民同志のコミュニティの手助け ○自治会、子ども会、老人会など、同じような内容を同じようなメンバーで行っているような気がする。一度、全ての会議団体を見直すことも必要。 ◎町と町民が協働し、さまざまな活動を盛り上げる。(住民活動の育成・支援) ○職員のワークショップへの派遣研修によるコーディネート力や実践力の育成。 ◎町民を中心に自立した活動の推進。 ○町民活動団体の紹介や仲介を行う場の創設(シーズとニーズのマッチング)とアドバイザー派遣。
地域資源を媒体にしたまちづくり活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎市民農園を増やし、遊休地を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> →畑は最高のコミュニティ形成の場であり、自給率をアップすることで災害にも強い町をアピール。 ◎失われていく自然を住民と連携して保全する。 <ul style="list-style-type: none"> →継続していくための仕組みづくりも重要(無償ボランティアではない) ◎住民とともに住環境を改善し、次世代に引き継ぐ。

《テーマ》 町の目指す姿

→本町の「強み」や「弱み」を踏まえ、10年後の町の目指す姿をお考えください。

《強み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ○温暖で災害の少ない町 ◎山があり、川があり、海がある ○自然が豊かで、古くからの歴史や生活文化、季節感の保持 ○広がる空 ○4つのプレートがぶつかってできた世界でもまれな場所
高いマンパワー	<ul style="list-style-type: none"> ○高い住民力(町の課題解決に向けた積極的な取り組み) ◎活発な町民の取り組み ◎パワフルな移住者と元気な高齢者 ◎高齢者比率の増加
コンパクトなスケール感	<ul style="list-style-type: none"> ○人口も面積も小さい町 ◎駅もあり、都会から近い

《弱み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自覚・アピール力不足	<ul style="list-style-type: none"> ○町の魅力を知らない ◎何もない風土のすばらしさを自覚していない ○アピールが下手 ◎活動している人たちを結び、つなぐことができていない ○行政経営
町の魅力不足・魅力の減衰	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然(里山)の荒廃 ◎歴史遺産が少ない ◎温泉がない ◎商店街がシャッター通りとなってきた

《町の将来像》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然を活かした暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○海、川、里山を回遊でき、遊学文化を感じる小さな町にのみや ◎山水郷@にのみや ◎二宮は暖気としらすと浮かぶ月
マンパワーを活かした共助の町	<ul style="list-style-type: none"> ○災害や困ったことがあるときに、お互いに「助けて」と言い合える町 ◎趣味やボランティアが盛んで、子どもからお年寄りまでが交流している町 →町の地域施設(児童館、コミュニティセンター等)で「児童館まつり」を年1回開催し、地域の人に活動をPRすることで、地域の人が活動するきっかけをつくるとともに、活動団体間の交流を活発にする。 ◎地元住民と若き移住者たちが手を取り合って、里山での暮らしを再生させたモデル地区(パワフルな移住者と元気な高齢者) ◎町民も行政も覚悟する

新たなチャレンジ	◎新・昭和40(1965)年をつくる →人口は昭和40年当時まで減少しても、情報等技術の向上、町民ニーズの変化による、新しい時代をつくることが重要。
----------	---